



青少年しまね

No. 100 平成31(2019)年3月

青少年育成島根県民会議

〒690-8501

松江市殿町1 県庁青少年家庭課内

TEL: (0852)-22-6255

FAX: (0852)-22-6045

HP: <http://www.shimane-youth.gr.jp>

E-mail: nobinobi@shimane-youth.gr.jp

Facebook: 「青少年育成島根県民会議」

おめでとうございます!!

第40回 少年の主張全国大会 ～わたしの主張2018～ で文部科学大臣賞を受賞しました!!



隠岐の島町立西郷中学校1年 高梨 はなさん

平成30年11月11日(日)に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された「第40回 少年の主張全国大会」で島根県代表の隠岐の島町立西郷中学校1年 高梨 はなさんが文部科学大臣賞を受賞しました。大会では全国から選ばれた12名の中学生が発表しました。文部科学大臣賞は最優秀賞に次ぐ第2位で、昨年に続いての受賞となります。島根県代表として栄誉ある賞を受賞された高梨さんに心から拍手を贈ります。(演題「ダブル」)

しまニッコ!(スマイル声かけ)県民運動PR 松江農林高等学校JRC部のみなさん



11月23日(金)松江農林高校JRC部のみなさんが松江農林高等学校の収穫祭で「しまニッコ!」県民運動のPRをしてくださいました。みなさんは部の活動として日頃から様々なボランティア活動を行われているそうです。収穫祭では、屋外でティッシュ配りをしながら声掛けをし、屋内のブースで「しまニッコ! サポーターズ」の登録をしました。

農林高等学校のみなさんの「スマイル」も写真に撮ってたくさん集めてくれました。

PR活動ありがとうございました!!

「しまニッコ!(スマイル声かけ)県民運動」 サポーターズ募集中!!

青少年育成島根県民会議では、「しまニッコ! 県民運動」をさらに県内各地に広めるための推進役を担っていただくサポーターを募集しています。青少年関係機関・団体、学校や事業所単位での登録もお待ちしています! サポーターにご登録いただいた方には「しまニッコ! サポーターズバッジ」をお渡ししています。詳しくはホームページをご覧ください!



しまニッコ!

検索



地域ではぐくむ青少年の社会参画

青少年育成島根県民会議会長 高橋 憲二

平成29年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果によれば、県内の公立の小学校・中学校・高等学校における暴力行為の発生件数は1128件で、前年度796件に比し332件、41.7%増加となっています。生徒1000人あたり16.5件で、その内訳は対教師暴力124件、生徒間暴力770件、対人暴力7件、器物破損227件となっています。このうち施設などに対する器物損壊行為が前年度比約64%増と大幅な増加傾向にあります。器物破損行為の多くは、人間関係上の不満やストレスなどを、物や施設にあたり発散する傾向や、遊びの延長から安易に物を壊してしまうことによります。また小学校・中学校における児童間・生徒間の暴力行為は増加しており児童生徒相互の人間関係の質と対人行動のあり方に注目する必要があるといえましょう。さらに小学校での暴力行為全体の発生件数の増加が顕著であることに留意する必要があるでしょう。

このように、学校現場や子どもたちの生活にみられる暴力行為やいじめ、不登校、引きこもりなどの実態は憂慮すべき状況となっています。特に、近年の社会や家庭の変化に伴い、子どもを取り巻く教育環境は、残念ながら好ましい方向に向かっていないといえます。また、社会全体を覆う不透明感や閉塞感は子どもの教育と無縁のものではありません。将来に明るい展望を抱けない大人社会のあり方や地域社会で孤立する家庭や幼児・児童虐待の横行など、

社会のとりわけ人間関係の歪みが子どもたちの豊かな成長の妨げとなっている面もあります。しかしこうした状況にあればこそ、子どもの豊かな成長を信じる大人社会のネットワークを構築することが大切です。

先日、益田市で開催された青少年育成県民運動推進フォーラムの「わかもの会議」に参加しました。県内の中学生から20歳代の若者が一堂に会し、自分のことばで、思い思いに語りあい、来場した大人たちからも多くの意見が寄せられました。「わかもの会議」の参加者全員が共有したことは、子どもや若者は、家庭や学校、地域社会の中で、多様な個性を持つ人々との相互関係を通して、ものの見方や考え方、集団と個人の関係のあり方など、人として生きていくために必要な基本的な姿勢や態度を身につけていくことができるということでした。子どもたち、若者たち一人一人が安心して自己の存在感を確認でき、様々な学習や活動を通して自分の良さを発揮し、自己有用感や達成感を持てるような活動の場を、地域の中にたくさん提供することが大切なことだと実感しました。

子どもは、本来、よりよく生きていこうとする主体的な存在です。青少年育成島根県民会議は、子ども若者によりそい、手を携えあって、よりよい島根の実現に向けて歩んでいくことを改めて確認した次第です。



第17回

子育て
子育て

ことのは大賞



県民会議では、県子ども・子育て支援課が行う「ことのは大賞」事業を共催し、「県民会議会長賞」を授与しています。第17回となる今回は4,739点の応募があり、受賞作品の表彰式が平成31年3月11日に県庁知事室で行われました。

「ことのは」とは…

子育てや子ども、家族に関する楽しさやうれしさ、感動などをきらりと光るひとことで表した言葉のことです。

◆県民会議会長賞（一般の部）

「SNSに愚痴投稿したら 息子から『ガンバレヨ』」

池岡 一昌 さん（鳥取県）



◆県民会議会長賞（こっころの部）

「母と喧嘩した朝は メールに「ごめん」を
書いては消して 書いては消した」

魚地 妃夏 さん（東京都・中部2年）



受賞おめでとうございます!!

平成 30 年度 青少年育成島根県民会議表彰

地域で活発な実践活動を展開している青少年、青少年団体・グループ、青少年指導者及び青少年育成市町村民会議等での青少年健全育成活動に寄与し、顕著な功績をあげて他の規範となる皆様を表彰しました。

■ 表彰式 期日：平成 30 年 5 月 10 日（木） 会場：島根県職員会館（平成 30 年度 総会時に表彰）

【青少年の部】

氏 名	市町村名	活動概要
錦織 颯天 高橋 遥香 坪井 千祐	出雲市	・ 3 年間にわたるコミュニティセンター行事のボランティア活動 夏祭り、文化祭のボランティアに自主的に応募し、事前準備段階から大人に交じって率先して活動した
今口 純	松江市	・ 少年補導委員として、青少年の非行・被害防止の啓発活動 ・ ネット犯罪被害防止活動（スマホのフィルタリングの必要性、家庭でのルール作りの大切さを啓発） ・ 非行少年の立ち直り支援活動（学習支援ボランティアとして、不登校傾向の小学生、非行傾向の中学生、無職少年などへ熱心な学習支援活動） ・ 大学構内における犯罪被害防止活動（3つの施設【乗り物・住宅・ネット環境】の啓発、自転車盗難抑止プロジェクトチームリーダーとして盗難抑止活動に貢献）

【青少年団体・グループの部】

団 体 名	市町村名	活動概要
紫近倶楽部	吉賀町	【サッカーを通じた奉仕活動・事業参加等により地域活性化に貢献】 ・ 子どもを中心としたサッカースクール開催 ・ 小学校のサッカーゴールの整備、除草作業や溝掃除などの環境整備活動 ・ 吉賀町の教育活動の一環としての親子体験教室にスタッフとして参加 ・ 吉賀町の文化事業へブース出店
仁多乃飛炎太鼓	奥出雲町	【太鼓の演奏活動を通して、心身の健全育成・地域活性化に貢献】 ・ 小学生を中心に年間を通して県内各地で公演を行い、活動を通してコミュニケーション能力の向上、礼儀や社会性を身に付けふるまい向上を図る ・ 地域行事参画により地域の活性化に貢献、また子どもたち自身が地域への愛着を深め地域に残り過疎化を防ぐ大きな役割を担う活動となっている

【青少年指導者の部】

氏 名	市町村名	活動概要
松崎 竹夫	松江市	・ 昭和 57 年に町内の小学生を対象に剣道会を設立し、長年にわたり指導者として活動 ・ 島根公民館運営協議会の青年部長、島根地域青少年健全育成連絡協議会会長、しまね子ども広場運営委員、しまね潮風児童クラブ主任として、乳幼児から成人と幅広く青少年の育成に尽力
岸 明弘	松江市	・ 松江ろう学校卓球部の外部コーチとして、生徒の技能や能力に応じた技術指導のみならず、マナーや礼儀についても指導、聴覚障がいのある生徒には、筆談でコミュニケーションを図り、愛情をもって育成にあたっている
青戸 伸一	松江市	・ 街頭パトロール（「松江水郷祭」等の祭礼時） ・ 風俗営業店への立ち入り調査 ・ 松江市青少年支援センターの就労支援員として自身が経営する会社に非行少年たちを就労体験させ、少年の再非行防止に尽力 ・ 少年柔道教室の指導員として、小・中学生を指導。技術面のみならず礼儀作法の習得や精神面の育成にも尽力
下森 敦之	益田市	・ 児童生徒の見守り活動 ・ 自転車鍵かけ指導員として少年補導委員や教職員、益田警察署員と共に自転車の鍵かけ点検を実施 ・ 平成 14 年から「通学合宿」として、子どもたちの合宿体験の機会を作り、自立性・社会性・協調性を育む健全育成活動を推進 ・ 保護司として非行防止にとどまらず、立ち直り支援についても意欲的な取り組みを実施
尾添 喜行	出雲市	・ 遙遠剣道スポーツ少年団の監督・指導者として、日々の練習をはじめ対外試合、剣道体験イベントなど、幅広く活動 ・ 剣道を通して、技術だけでなく礼の心を育む指導を行い、子どもたちに人間形成の道を伝達
周藤 雅範	出雲市	・ 平成 6 年、西野・中部卓球スポーツ少年団を設立、24 年間にわたり卓球技術の向上とともに、挨拶や感謝の心を身につけることも目的に積極的な活動を実施 ・ 出雲地区の小学生の合同練習会、島根県小学生卓球交流会を主催し、島根県内の小学生の卓球の普及と親睦を図る活動により、青少年の健全育成を推進
新治 弘念	大田市	・ 児童生徒の見守り活動や祭礼時の街頭パトロール活動 ・ 平成 22 年に地域住民有志で結成した読み聞かせの会のメンバーとして、小学校を訪問し 8 年間にわたり読み聞かせ活動を実施。題材には郷土愛を育む作品も取り入れるなど、創意工夫を凝らした活動を実践 ・ 地元の学校、家庭、地域を繋ぐリーダー的存在として、子どもを取り巻くネットワークの構築に貢献
倉益 正光	津和野町	・ 津和野柔道スポーツ少年団の指導者として 16 年間にわたり尽力し、技術面の向上のみならず、あいさつや基本的生活習慣を身につけること、自主性・主体性を尊重した育成に取り組み、隣県との交流にも努める ・ 平成 23 年 4 月から鹿足地区少年補導委員を務め、地域のパトロールを始めとして少年の健全育成に献身的に取り組む

【その他の部】

氏 名	市町村名	活動概要
石倉 知樹	松江市	・ 平成 14 年から青少年育成八雲村民の会（現 八雲青少年育成の会）の事務局長として青少年育成運動および活動の支えとして連絡調整、企画・活動のまとめ役を担い推進の原動力となるとともに、青少年育成町民運動展開に大きな役割を果たしている。また、財源確保の取り組みを行い、安定した運営に尽力 ・ 平成 20 年度には地元の青少年団体を、財団法人修養団 SDY ボランティア奨励賞の文部科学大臣賞に次ぐ優秀賞受賞に導いた
野津 孝志	松江市	・ 平成 15 年から平成 28 年まで朝酌地区青少年育成連絡協議会会長として青少年育成に尽力。青少年健全育成啓発活動として各種行事の支援、小中学校や体協、各実行委員会と連携イベントや研修会・講習会を実施し啓発を推進した ・ 地域に根付いた活動により地域力向上に大きく貢献し、子どもだけでなく周囲の大人も巻き込んだ活動を実施

平成30年度 少年の主張島根県大会

県内13ブロックで開催された市郡大会から選出された17名の代表によって平成30年度「少年の主張島根県大会」を開催しました。

島根県知事賞1名、島根県教育委員会教育長賞1名、島根県警察本部長賞1名、青少年育成島根県民会議会長賞1名、審査員特別賞2名、優秀賞11名を選出し、島根県知事賞1名を県代表として「少年の主張全国大会」に推薦しました。

平成30年9月27日（木） 安来市 総合文化会館アルテピア 大ホール

主催：青少年育成島根県民会議 島根県中学校長会（主管：安来市中学校長会） 視聴者数：900名

「少年の主張島根県大会」は、島根の明日を担う中学生が、日ごろの学校生活や家庭生活を通じ、考えたり感じた事柄を、同級生のみならず一般市民など多くの人々の前で発表する場です。発表者にとっては自らの自立心を育てる機会となります。主張を聞いた中学生は共感することによって自分の考えを広め、自覚する機会となります。そして発表を聞いた大人は中学生に対する意識や行動に理解や関心を深める機会となります。

本年度は47回目を迎え、平成30年9月27日安来市総合文化ホールアルテピアで開催しました。当日は、島根県内各地区から選出された17名が、自分自身に関わること、家族、友人、学校や地域のできごと、故郷への思いなどからテーマを見つけ、豊かな感性でとらえた意見を力強く堂々と発表しました。

青少年育成島根県民会議 会長 高橋 憲二



今回の発表には多彩なテーマがありましたが、大きく2つのテーマに分けられました。一つは「外国人・障がい者」といったマイノリティとの向き合い方について、もう一つは「病気・地域」と自分との関わり方についてです。様々な角度から中学生らしい意見を聞くことができました。

発表者の皆さんの表現力が豊かで話し方も洗練されており、視聴者に訴える表現スタイルが印象的だったと審査員全員が評価しています。我々大人が普段見落とししていたり、気が付かなかったりすることを、中学生の視点から鋭く指摘され、良い勉強の機会を与えてもらったと思います。

審査員長 前田 幸二

審査結果



発表者17名と審査員・来賓・主催者による集合写真



安来二中の皆さんによるアトラクション（安来節）

賞名	演題	学校名	学年	氏名
島根県知事賞	「ダブル」	隠岐の島町立西郷中学校	1	高梨 はな
島根県教育委員会教育長賞	私の生命線	飯南町立嶺原中学校	3	中 柚月
島根県警察本部長賞	家族で闘う	津和野町立日原中学校	3	斎藤 明里
青少年育成島根県民会議会長賞	今、私たちにできること	安来市立第一中学校	3	伊達このか
審査員特別賞	守るべきもの	雲南市立大東中学校	3	永井 宏樹
//	自分を変える	出雲市立平田中学校	3	野津 歌純
優秀賞	プレッシャーの先へ	奥出雲町立仁多中学校	3	藤井 淳史
//	今を「生きる」	松江市立第二中学校	3	瀧 和夏奈
//	集団の中で「自分」をもつこと	出雲市立湖陵中学校	3	中尾七奈子
//	弟の存在	安来市立伯太中学校	1	宮本 典佳
//	向日葵とオオチドメ	浜田市立三隅中学校	3	河野 寛生
//	「普通」って何だろう	益田市立横田中学校	1	佐田 治子
//	繋がる喜び	川本町立川本中学校	1	遠藤 ガルス
//	私を成長させてくれた出会い	松江市立玉湯中学校	2	長谷川結菜
//	人とつながる	益田市立真砂中学校	3	岡岡 永太
//	今の私たちにできること	江津市立江東中学校	3	安部 愛理
//	相手を思う言葉	大田市立北三瓶中学校	3	大國 凌雅

島根県知事賞

「ダブル」

隠岐の島町立西郷中学校 1年

たかなし

高梨 はな さん



夏休みを数日後に控えた7月16日、全校一斉での竹島学習がありました。先生の話の聞いたり、動画を見ていたりしたとき、こんな声が聞こえてきました。

「ねえ、これって韓国が間違ってるよね。」

日本の伝えている竹島の歴史が正しいと思う気持ちと、それでも韓国のことを悪く思われたくない気持ち。私の心の中には、日本と韓国どちらとも信じたいという気持ちがあって複雑です。なぜなら、私の父は韓国人。私は日韓のハーフだからです。

日本と韓国は歴史上微妙な問題を抱えていて、常に好感と嫌悪とを繰り返しています。今は「TWICE」や「BTS」などのKポップ人気で韓国に興味をもってくれる人がたくさんいます。「韓国語が話せてうらやましい。」と友達にもよく言われます。でも、このブームはいつまで続くのでしょうか。

私は小学生の頃クラスメートに「お前韓国人だろ。竹島返せよ。」と言われたことがあります。そのときは、やっぱり悲しくて悔しかった。でも友達とは家族の国籍が違うだけで、同じことで泣いたり笑ったりする毎日は変わらない。そう信じられたから、勇気を出して言いました。「私が韓国人なのが悪いんじゃない。悪いのは認め合えない世の中だと思う。」と。

私が韓国人でもあり日本人でもあることは、生まれたときから決まっていたことです。そして、父の国韓国を大切に思うことは、母の国日本を大切に思うことと同じです。どうしてくらべる事が出来るのでしょうか。この気持ちをみんなにもわかってほしかった。あのとき自分

の言葉でちゃんと伝えることができて本当に良かったと思っています。

私は私の経験から、国と国との関係や人の心のつながりをブームにしてはいけなく強く感じています。どんな人とも、どんなことがあっても、わかり合う努力をしたい。それは決して難しいことではないと思います。

例えば、私の家では、家族で話をするとき韓国語と日本語が自然に混じります。

（はな）「今日部活でたたくところ間違えちゃった。」

（母）「えー、そこちゃんと 연습（練習）しないと。」

（父）「대회까지 조금 밖에 안 남았으니까 열심히 해야지. (コンクールまであと少しだから、よく練習して頑張らないとな。)」

（はな）「알았어. (はい。)」

といった具合です。また、食卓には韓国のりと日本ののりが一緒に並んでいます。

こんなふうにそれぞれの違いをそのまま受け止めて、それでも「すべての人が同じ人間である」と理解することから、わかり合う努力は始まるのではないのでしょうか。外国人だからという理由でしたいことが出来ない。また日本人と同じように見てもらえないと悩む人がいなくなり、誰もが安心してこの国の中で暮らしていける。大好きな日本は、そんな国であってほしいです。

私の心の中は、日本が半分、韓国が半分なのではありません。日本も、韓国もなのです。それぞれの国の良さを、胸を張って伝えたい。私は、「ハーフ」ではなく「ダブル」の生き方を目指したいです。

県下最大のソリューション
ネットワークで、皆様の
ビジネスを+にクリエイト

CreA+

Credo
創る、その先へ

CreAplus inc. 本社
〒690-0048 島根県松江市西條島1-5-17
株式会社 クリアプラス TEL 0852 21 3476 / FAX 0852 21 3866

その先の“いいね”を目指して——

印刷会社 黒潮社
PRINT COMPANY KOKUCHOSHA

〒690-0841 松江市向島町182-3
TEL.0852-21-3409 FAX.0852-21-3554
E-mail koku@k-pri.co.jp

印刷 黒潮社 検索

「ひと」と「ひと」をつなぐ ～県民会議が会った「ひと」～

県民会議ではこの一年間で様々な分野で活躍するみなさんにお会いし、活動を支援したり一緒に活動したりしてきました。今回はそんなみなさんにお話を伺いました。

- Q1. 活動を始めたきっかけは何ですか？なぜ始めようと思ったのですか？
 Q2. 具体的にどのような活動をしていますか？
 Q3. 活動を始めて良かったことや辛かったことは何ですか？（個人的な気持ち）
 Q4. 活動を進めていく上で、難しかったことはありますか？（人材確保や資金調達等の運営面）
 Q5. 今後どのように活動を進めていきたいですか？
 Q6. 青少年育成活動に興味のある人へひとと言をお願いします

①のぎ自学室代表 村上 真奈さん

「のぎ自学室」

松江市乃木公民館で月4回、中学生以上の子どもたちに無料で自学の場を提供している。子どもたちは島大生・社会人ボランティアへ学習の質問をすることもできる。

- A1. 自分自身が休みの日などに勉強する場所がなくて困っており、今の子どもたちも困っているのを見聞きしたため、スタートしました。
 A2. 自主自学スペースを提供しています。その他、ボランティアによる英語教室や、「子どもと大人の自学室」という学習イベントを開催しています。
 A3. 嬉しかったことは、長期間通ってくれた中高生の進路が決まったと報告してくれた時です。また、地域の方の応援が大変心強いです。最初の頃は誰も来ない日も度々ありましたので、続けていくことが大変でした。
 A4. 会場の確保が大変でした。今は地区の協力でまとめて予約していただくことができています。
 A5. 同様の活動をしてくださる方を増やしていきたいと考えています。
 A6. 子どもたちに関わると自分も頑張ろうと元気がもらえます。できることを少しずつ、子どもたちのために活動しませんか。

②高田みんなの学校 穴戸 俊悟さん

「高田みんなの学校」

仁多郡奥出雲町にある古民家を改修した手作りの図書館。本に触れる機会の少ない中山間地域を舞台に、人が集まる様々な場所に分館を設置し、本と出会う場、本を介して人と人が交流する場を提供している。



- A1. 本の少ない山間部で生まれ育ったのでいつか山間部でも気軽に本に親しめる場所が欲しいと思い、蔵書を少しずつためていました。ある時、知り合いと一緒に中山間地域に図書館をつくらないかと声をかけてもらったことをきっかけに、仲間と相談して一緒に図書館づくりに取り組むことになりました。
 A2. 他の私設図書館と連携して、「奥出雲町民立図書館」という活動をおこなっています。人が集まる店舗やフリースペースに小さな本棚を設置し、気軽に本を読んでもらえる機会を提供したり、昨秋には「ダーツ古書店」や「ハックツ奥出雲」といった本に親しみをもってもらえるイベントをやりました。
 A3. 普段あまり本を読まないという方も多いので、図書館をつくって終わりなのではなく、本に親しむ機会を積極的につくっていかなくてはならないと感じました。良かったことは、町内外問わず本が好きな人たちがつながる機会が増えたことです。
 A4. クラウドファンディングでの資金調達や多くの方々に本を寄付してもらったことなど、たくさんの方に関わっていただいているからこそ活動が成り立っていると感じています。人繰りの点でどうしても不定期の開館になってしまうのが課題ですが、そこは無理をせず気軽に本を読んでもらえる場を提供することなど、課題に対して柔軟に工夫をして解決したいと思っています。
 A5. 素晴らしい本との出会いは、人と出会ったり、旅をしたりするのと同じくらい多くの学びを与えてくれるし、人生を充実したものにしてくれると思っています。本を通してサイエンスカフェや哲学カフェなんかをやってみるのも面白そうだなと思っています。いろんなことを試しながら多くの人が本と親しめる機会を引き続きつづけていきたいと思っています。
 A6. 社会的に良いことをやるというのはもちろん大切ですが、それだけだと息切れしてしまいます。自分が楽しいと思えることをやってそれが結果的に周囲のためにもなるような活動のほうが続けられるし、好きだからこそ卓越もできて結果的にはよいのではないのでしょうか。

③NPO 法人 Ruby プログラミング少年団代表 高尾 宏治さん

「Ruby プログラミング少年団」

小中学生を対象とし、プログラミング言語 Ruby を活用したプログラミング教室を行う。コンピュータをただ使うのではなく、工夫し創造する力を持つ人材を育成すると同時に、コンピュータやインターネットを中心としたメディアに対する正しい知識を習得することで、子どもの健全育成と情報化社会の発展に寄与することを目的としている。



- A1. 2013 年頃、プログラミング教育が小中学校の義務教育課程に導入されましたが、適切な教材がなかったり、指導者が不足している環境でプログラミングについて学ぶと、その楽しさに気付く前にプログラミングを嫌いになってしまう可能性があります。このため、プログラミングの楽しさに気付くことができる教材を提供し、プログラミングの指導者を育てることが必要だと考えたのがきっかけです。
 A2. 毎月 2 回のプログラミング教室を運営しています。また、公民館等が主催するプログラミング体験教室に講師を派遣したり、プログラミングの指導者の講習会を開催しています。いずれも無料で実施しています。
 A3. 教室の運営を通して、「コンピュータを触ったことがない」「プログラミングを知らない」という子供の「できない」から「できる」への変化に立ち会えることが嬉しいです。フルタイムで別の仕事をしながら、主に休日を利用してプログラミング教室を運営しているので、月に 2・3 回しか活動できないことが残念です。うまく時間を調整して、週に 2〜3 回開催できるといいです。

- A 4. 会計、理事会、総会、登記等の事務処理が難しいことです。専属の事務がないので、基本的には理事長が全て一人で行っています。期日に遅れることもあるため、これはなんとか改善したいですね。
- A 5. 今はとにかく継続してプログラミング教室を運営していきたいです。そして、開催回数を増やして毎週実施できるようにしたいです。
- A 6. 青少年育成活動の中でも、私達と同じように各種教室を運営することに興味がある人に向けて伝えたいことは、教室の運営を通して、子供たちができなかったことができるようになる、その瞬間に立ち会えることができることです。そのとき、子供自身が喜びを感じるだけでなく、携わった私達も幸せな気分になります。みなさんにもそれを感じてほしいと思っていますので、得意なことを生かしていろいろな体験教室を運営していただければと思います！

④益田市インターン 河本 亜由美さん

益田市出身、島根大学4回生。大学を半年間休学し、益田市教育委員会社会教育課でインターンシップ中。
地元である美都町で20代と30代、小学生と60代で世代間のつながりを作っている。実際に行なっている活動は美都中学校カタリ場や、大人カタリ場、生産者交流会などがある。

Q 1. なぜ益田市でインターンを始めようと思ったのですか？

18歳まで過ごした益田市二川地区は異世代の人たちが年齢関係なく家族のように仲がいい地区だったこともあり、小学校の運動会での親子対抗リレーの時、両親の代わりに地域のおじちゃんが自分と走ってくれたことがありました。しかし、小学校が廃校し運動会がなくなると、今まであった地域のつながりが一気になくなった気がしました。その時の寂しい気持ちと自分が地区を元気にしたいという思いが、インターンを始めようと思ったきっかけです。

Q 2. 今、具体的にどのような仕事をしていますか？

現在は、「益田版カタリ場」といって、中高生と地域の大人や小学生と高校生と一緒に対話をし、「これからどんな人になりたいか」を一緒に考える授業の運営をしています。当日の司会進行やカタリ場の参加者に研修を行なっています。子どもたちが幸せな気持ちになるだけでなく、参加した大人も幸せな気持ちになってもらえるよう日々考えています。

Q 3. インターンを始めて良かったことや辛かったことは何ですか？

良かったこと驚いたことは、益田には前向きな方が多くて、自分の「やりたい」を全力で伝えたら応援してくれることです。そういう大人と出会えたことは良かったことだと思います。逆に、ごくたまに否定的な意見をいただくことがありますが、その時にうまく気持ちが伝えることができて悔しい思いをしたときは辛かったです。

Q 4. インターンを進めていく上で、難しかったことはありますか？

スケジュール管理です。仕事をやり始めると、やりたいことがたくさん増えすぎてしまいます。そのため、今まで以上にスケジュール管理を徹底しないと締め切りに間に合わなかったり、スケジュールがブッキングして自分自身がキツくなることがあったりしました。ただスケジュールを詰め込むのではなく、自分の体調は万全で挑めるのか、仕事がおろそかにならずにできるか見極めてスケジュールを立てなければいけないことを学びました。

Q 5. この経験を今後どのように生かしていきたいですか？

やりたいことを実現するのに絶対にぶれてはいけない軸を作ることが大切であると学びました。この学びを今後社会の様々な場面で生かしていきたいと思います。

⑤島根県青少年育成アドバイザー連絡協議会会長 原 史行さん

出雲市在住。平成8年に（旧）青少年育成国民会議が認定した青少年育成アドバイザーの資格を取得。
平成26年から県内の青少年育成アドバイザーの集まりである島根県青少年育成アドバイザー連絡協議会の会長を務める。



Q 1. 青少年育成アドバイザーとは何ですか？

青少年の健やかな成長と自立を支援するための専門的知識や技術を学び、実際に青少年の育成や支援などにボランティアや業として各職場・職域で関わっている人をいいます。アドバイザーの活動は限定されておらず、百人のアドバイザーがいれば百通りの定義ができます。例えば、それぞれの場所で青少年に関わって地域を盛り上げたり、人と人をつないだりして将来を担う英知を育てていく。それにいい影響が及んでいけば、アドバイザーとしての活動は成功したと言っていいでしょう。その活動をお互いに共有し合って学び合い、できるところは真似て、精神的側面を取り入れるというのがアドバイザー協議会のメリットです。

Q 2. アドバイザーの資格を取ろうと思ったきっかけは何ですか？

当時勤務していた職場の方がアドバイザー養成講座に参加し資格を受けておられ、勧められたことが第一です。また、当時生活保護のケースワーカーとして家庭訪問した家庭の子どもの教育について相談を受けたりしたこともきっかけになっています。

Q 3. 今、具体的にどのような活動をしていますか？

過去、子どもの小中学校、高校のPTA活動については積極的に取り組みました。地域のコミュニティ活動においても青少年と関わることは多少はありますが、いま時点でこれだと自信を持っていう活動拠点は特にありません。それでもアドバイザー協議会における研修の主催や県民会議への協力が私の活動の場だと言えると思います。

Q 4. アドバイザーの資格を取って良かったことや辛かったことは何ですか？

アドバイザーになった当時、わたしの息子、娘が大きくなっていく過程でつつい懲罰的に手を上げそうになった際に冷静になれたことが大きいです。自分と家族、社会全体とのつながりを改めて見つめ直すことができたと思います。

Q 5. 今後アドバイザーとしてどのような活動をしていきたいですか？

活動を担うメンバーが私も含めて高齢化してきており、年を取って活動はもうできないという理由で会を離れる人が増えています。会の活動継承をするためにも、若々しい力の加入ををすすめていきたいと思っています。

Q 6. 県民会議の会員のみなさんに伝えたいことがあれば、お願いします。

多くの活動を束ねてこられたエネルギーに感服いたします。青少年を軸にして、人を育て、組織を形づくり、社会的気運を高めていく…会員のみなさんの頑張りが生んできた成果です。活動がさらに活発になっていくよう望んでいます。

平成 30 年度 青少年育成県民運動推進フォーラム

“地域で育む青少年の社会参画”をテーマに、青少年の主体的な活動を地域でどのように応援していくかを考えるきっかけとするために、青少年育成県民運動推進フォーラムを開催しました。

期日：平成31年2月16日（土） 会場：益田市総合福祉センター大集会室（益田市） 参加者：113名



◆講演

「ひととはひとによってひととなる～ひとづくりの循環が未来を拓く～」
益田市教育委員会社会教育課 谷上 元織 氏

益田市で行われている「ひとづくり」事業について、小学生と中学生、中学生と高校生、高校生と大人が対話しながら益田市のことや自分の将来について考える「益田版カタリバ」の実施状況などを具体的に分かりやすくお話しいただきました。

谷上さんのユーモアあふれるトークに会場全体が一気に引き込まれていきました。谷上さん、貴重なお話をありがとうございました！

◆青少年活動実践発表「平成29年度チャレンジ支援事業実施団体」



←「たまめん活動の充実、他の青少年団体との繋がりづくり」 たまゆメンバーズくらぶ（松江市）

松江市玉湯町の有志が集まり、玉湯公民館を中心として地域を盛り上げるために活動している様子を紹介してくださいました。

→「中学校校庭を1日貸切っての音楽祭の開催」
吉賀野外音楽フェスティバル実行委員会（吉賀町）

鹿足郡吉賀町の有志が集まり、お盆に吉賀中学校の校庭を使って野外音楽フェスティバルを開催する様子を紹介してくださいました。



◆わかもの会議 「それぞれの地域・分野から集う若者によるディスカッション」

- ・テーマ：一人一人が輝く地域社会とは ～「ひと」・「もの」・「こと」との関わりをとおして～
- ・司会進行：ほっとスペースゆきみーる 室長 高橋 賢史 さん



今回のフォーラムで一番盛り上がったのが「わかもの会議」です。昨年のフォーラムでも好評で、今回二回目の開催となりました。司会進行は昨年同様にほっとスペースゆきみーる（大田市）の高橋さんです。会議では様々な分野で活躍する中学生～社会人までの若者たちの生の声を聞きました。みなさんそれぞれの想いを真剣にそして丁寧に伝えてくださり、観客のみなさんもその姿に心を打たれておられました。そして、圧巻だったのは司会進行の高橋さんの絶妙なコーディネート力！緊張する若者たちの心をほぐしながら、和やかな雰囲気の中、会場全体を巻き込んで進行してくださいました。観客のみなさんからもたくさんの質問や意見が出て、会場全体で盛り上がりしました。

🗣️ 当日のアンケートから…

- ・講演で「出会い」や「対話」の大切さについて実感した。
- ・他の地域の方々の意見や課題を知ること、自分たちの地域の強み・弱みを知ることができた。
- ・「子どもだからできない」という思い込みを捨て一人の個人として話をしていきたいと思う。
- ・子どもが主役になれるフォーラムを今後も開催して欲しい。
- ・頑張っている青少年がこんなにたくさんいるんですね。
- ・「島根の若者ってなかなかやるじゃん」と思える会だった。
- ・高齢者も若者とのカタリ場が欲しいな。
- ・会場の参加者の年齢層がもう少し若くなると良いなと思いました。

印刷の情報は何でも提供いたします

 **明和印刷有限会社**

〒690-0822 松江市下東川津町61-5
Tel.0852-22-3196 Fax.0852-22-3306
E-mail:meiwa@ms1.megaegg.ne.jp

 **有限会社 高浜印刷**

Takahama

〒690-0133 島根県松江市東長江町902-57
TEL. 0852-36-9100 FAX. 0852-36-5775
E-mail: info@takahama.jp

高浜印刷は島根サノオマジックを応援しています。 

会員・賛助会員のみなさま (H31. 3月31日現在)

県民会議の事業にご支援・ご協力いただいている会員・賛助会員のみなさまをご紹介します。
みなさまのご支援・ご協力に感謝申し上げます。



【会員】※掲載の承諾をいただいた方のみ掲載しています（敬称省略）

〔青少年育成市町村民会議〕松江市青少年育成連絡協議会 浜田青少年健全育成推進会議 出雲市青少年育成市民会議 益田市青少年育成市民会議 大田市青少年育成市民会議 安来市青少年育成連絡協議会 江津市青少年健全育成協議会 雲南市青少年健全育成協議会 青少年育成出雲市市民会議 飯南町青少年育成協議会 川本町青少年育成市民会議 青少年育成美郷町市民会議 青少年育成邑南町市民会議 津和野町青少年育成連絡協議会 吉賀町青少年健全育成協議会 海士町青少年問題協議会 西ノ島町要保護児童対策地域協議会 知夫村青少年健全育成推進会議 隠岐の島町まちづくり運動協議会ひとづくり部会〔青少年育成関係団体〕八雲青少年育成の会 金城自治区青少年健全育成連絡協議会 青少年育成三隅町市民会議 薦巣地区青少年育成協議会 灘分地区青少年育成協議会 青少年育成アドバイザー連絡協議会 出雲いのちを考える懇談会 いのちの始まりを大切にすの会 一般財団法人 島根青年館 一般財団法人 島根県母子寡婦福祉連合会 NPO法人 しまね子どもセンター NPO法人 緑と水の連絡協議会 公益社団法人 松江青年会議所 国際ネットワークしまね 国立三瓶青少年交流の家 子どものすこやかな成長を願う会 更生保護法人 しらふじ 更生保護法人 島根保護観察協会 島根県更生保護女性連盟 大社地区更生保護女性会 斐川町更生保護女性会 江津市更生保護女性会 島根県公民館連絡協議会 島根県里親会 島根県児童入所施設協議会 島根県少年補導委員連絡協議会 島根県人権擁護委員連合会 島根県身体障害者団体連合会 島根県弁護士会 島根県保育協議会 島根県保護司会連合会 島根県民生児童委員協議会 川跡地区民生委員児童委員協議会 湖陵地区民生委員児童委員協議会 平田地区民生児童委員協議会 大田市民生児童委員協議会 川本町民生児童委員協議会 島根県レクリエーション協会 島根県連合青年団 社会福祉法人 島根いのちの電話 社会福祉法人 島根県社会福祉協議会 国富地区社会福祉協議会 吉賀町社会福祉協議会 社会福祉法人 島根県社会福祉事業団 日本赤十字社島根県支部 松江教育事務所社会教育スタッフ 松江刑務所第3面接委員連絡協議会 松江刑務所教誨師会〔青少年団体〕ガールスカウト島根県連盟 日本ボーイスカウト島根連盟 上府子供供楽団〔教育関係団体〕大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 公益財団法人 島根県学校給食会 国立大学法人 島根県立大学 島根県学校保健会 島根県高等学校定時制通信制教育振興会 島根県高等学校生徒指導協議会 島根県公立高等学校校長協会 島根県私立高等学校校長会 島根県中学校校長会 島根県小学校校長会 島根県公立幼稚園・子ども園長会 島根県PTA連合会 島根県高等学校PTA連合会 島根県特別支援学校PTA連合会 島根県私立中学高等学校PTA連合会 島根県幼稚園・こども園PTA連合会 島根県子ども会連合会〔体育スポーツ関係団体〕公益財団法人 島根県体育協会 島根県高等学校体育連盟 島根県中学校体育連盟 島根県小学校体育連盟〔報道機関〕NHK松江放送局 株式会社 山陰中央新報社 株式会社 山陰放送松江支社〔医療機関〕医療法人 大学前のつ内科クリニック 医療法人社団 吉田医院 医療法人正光会 松ヶ丘病院 佐貫内科医院〔企業〕株式会社 渡部特殊土木 株式会社 ダナック 株式会社 山本工務店 西日本旅客鉄道(株) 米子支社 三刀屋金属株式会社 有限会社 福岡工務店 有限会社 松本印刷〔その他の団体〕出雲たばこ販売協同組合 一般財団法人 島根県交通安全協会 公益財団法人 島根県老人クラブ連合会 公益社団法人 島根県防犯連合会 島根県カラオケスタジオ防犯協力会 島根県写真家協会 島根県商工会議所連合会 島根県商工会連合会 島根県遊技業協同組合 島根県旅館ホテル生活衛生同業組合 島根県連合婦人会 浜田ライオンズクラブ 出雲中央ライオンズクラブ 平田ライオンズクラブ 木次ライオンズクラブ 頓原ライオンズクラブ 赤来ライオンズクラブ 出雲ロータリークラブ 出雲中央ロータリークラブ 出雲南ロータリークラブ 浜田ロータリークラブ〔寺社〕常楽寺 上乘寺〔個人〕有馬毅一郎 生田昌子 高瀬寿子 高橋憲二 花田敦子 林和博 森泰 吉長義親

【賛助会員】※掲載の承諾をいただいた方のみ掲載しています（敬称省略）

〔青少年育成関係団体〕出雲市上津地区社会福祉協議会 檜山地区青少年育成協議会 出雲更生保護女性会 浜田地区更生保護女性会 松江地区BBS会 松江地区保護司会 出雲地区保護司会 益田地区保護司会 安来地区保護司会 松江市民生児童委員協議会連合会 浜田市民生児童委員協議会 出雲市大津地区民生児童委員協議会 出雲市大社地区民生委員児童委員協議会 佐田地区民生委員児童委員協議会 多伎地区民生委員児童委員協議会 平田東地区民生児童委員協議会 益田市民生児童委員協議会 江津市民生児童委員協議会 飯南町民生児童委員協議会 津和野町民生児童委員協議会 知夫村民生児童委員協議会〔報道機関〕山陰中央テレビジョン放送株式会社〔医療機関〕医療法人 伊藤医院 医療法人心と会 船津内科医院 医療法人 泰医院 医療法人 マザリー産科婦人科医院 医療法人 山尾医院 医療法人社団 福田医院 医療法人順和会 中島医院 小竹原医院 小林病院 松北台メディカルスクエア よねだ内科 津田医院 島前医師会 西川病院 古瀬医院 益田整形外科医院〔寺社〕出雲大社 岩屋寺 永昌寺 観音寺 観知寺 熊野大社 源光寺 弘長寺 島根県神社庁 宗教法人 清水寺 宗教法人 十楽寺 泉泉寺 宗淵寺 正覚寺 禅覚寺 松源寺 浄心寺 常教寺 常徳寺 常楽寺 全龍寺 曹洞宗島根県第二宗務所 大林寺 仙仲寺 梅窓院 遍照寺 法雲寺 萬行寺 萬松院 御井神社 妙義寺 妙法寺 妙本寺〔企業〕飯谷建設株式会社 イズミック株式会社 今岡工業株式会社 雲南建設株式会社 大田生コンクリート株式会社 隠岐汽船株式会社 オブジェクト 開盛建設株式会社 柏村印刷株式会社 株式会社 一畑百貨店 株式会社 ウエヤマ株式会社 ウシオ 株式会社 内村電機工務店 株式会社 大島工務所 株式会社 香茅本舗 株式会社 キムラ 株式会社 後藤建設 株式会社 佐々木組 株式会社 佐藤組 株式会社 山陰合同銀行 株式会社 サンクラフト 株式会社 島根銀行本店 株式会社 島根マツダ 株式会社 クリアプラス 株式会社 第一ホーム 株式会社 太陽建設コンサルタント 株式会社 竹田組 株式会社 都岡土建 株式会社 内藤組 株式会社 中筋組 株式会社 原工務所 株式会社 深田建設 株式会社 堀工務店 株式会社 松文オフテック 株式会社 マルマン 株式会社 みしまや 株式会社 みよしや 株式会社 もちだ園芸 株式会社 守谷刃物研究所 株式会社 山口商店 株式会社 山本組 株式会社 ユニコン 株式会社 岩多屋 株式会社 豊洋 株式会社 ホテル一畑 株式会社 マツケイ 企業警備保障株式会社 五共木材株式会社 黒潮社 湖北ベニヤ株式会社 山陰クボタ水道用材株式会社 山陰建設工業株式会社 山陰水道工業株式会社 山陰電工株式会社 三瓶生コン株式会社 島根交通機材株式会社 島根自動機株式会社 しまね信用金庫 島根電工株式会社 正栄工業株式会社 須佐チップ工業有限会社 第一建設株式会社 第一建設工業株式会社 大軌建設株式会社 中国道路株式会社 中国労働金庫島根県営業本部 中浦食品株式会社 西日本鉱業株式会社 日本生命保険相互会社松江支社 浜田港運株式会社 浜田マル中株式会社 平井建設株式会社 福岡商事株式会社 北陽警備保障株式会社 北陽ビル管理株式会社 本藤建工株式会社 松江土建株式会社 まるなか建設株式会社 明和印刷有限会社 有限会社 植田建設 有限会社 小川商店 有限会社 沖野工業 有限会社 オリオン工芸社 有限会社 角田商店 有限会社 かわせ美容室 有限会社 吉廻商店 有限会社 島根パーク 有限会社 高浜印刷 有限会社 友田大洋堂 有限会社 平田生花店 有限会社 松江皆美館 有限会社 ヤマダ看板 有限会社 江陽印刷 有限会社 シンザイサニテック 有限会社 福井建設 有限会社 松江自動車用品商会 有限会社 宮本会計事務所 和幸株式会社〔その他の団体〕一般社団法人 島根県警備業協会 一般社団法人 島根県物産協会 生活協同組合しまね 島根県酒造組合 松江小売酒販組合 新国屋自治会 宮ノ丁町内会 浜田市防犯協会 松江ライオンズクラブ 松江葵ライオンズクラブ 松江湖城ライオンズクラブ 八雲ライオンズクラブ 益田ライオンズクラブ 瑞穂ライオンズクラブ〔個人〕岩元敏子 大賀幸恵 神門洋子 北島建孝 近藤睦美 佐々木正和 須山美玲 立石典夫 玉串和代 玉野二三男 野津雅史 堀江隆典 堀江正俊 村上三恵子 米田盛造

青少年育成島根県民会議とは？

《青少年育成島根県民会議組織図》

1 青少年育成島根県民会議の設立と現状

青少年育成島根県民会議（以下、「県民会議」）は次代を担う青少年が、豊かな心を育み、社会の一員として自立し、心身ともに成長することを願って、昭和41年9月に設立された県民運動団体です。時代は流れ、平成28年度に結成50周年の節目を迎えました。50年間の青少年を取り巻く環境の変化は目まぐるしいものであり、県民会議では、今後の青少年育成県民運動の更なる拡充と浸透を図るために、平成29年度に「あり方検討委員会」を設置し、実践活動に取り組む青少年や活動支援者の自由な視点から県民会議のあり方について議論しました。

2 青少年を取り巻く状況

青少年の健やかな育成は、全ての大人が取り組むべき重要な課題との意識の高まりから、各地域で様々な主体がその特性を活かし、創意工夫しながら活動しています。一方で、同じ地域でありながら、お互いの活動をあまり知らない現状があります。また、活動が大人主体の企画になっていたり、活動自体のノウハウや場所、運営資金、スタッフ確保などの情報が少なく、活動の活性化や継続が難しい現状があります。加えて、活動がある程度定着した青少年団体の中には、地域外の団体との交流やコラボレーションすることで、互いに刺激し合い、更なる進化を目指したいと願う団体もあります。

3 県民会議が目指す姿

(1) 「子どもが主役」「地域の子ども・みんなの子ども」への意識改革

■「子どもが主役」という視点での青少年育成活動の実施

- ・ 青少年の意見や行動力を、青少年育成や地域活性化に活かす仕組みづくり
- ・ 青少年が自由に活動できる居場所づくり

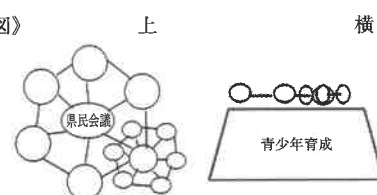
■すべての大人が「地域の子ども・みんなの子ども」という意識のもと、県民総ぐるみで青少年を育成する

(2) 青少年育成活動のプラットフォーム的な役割と機能の強化

■様々な青少年育成活動に関わる機関・団体をつなげ、協働を支援するプラットフォーム的な役割と仕組みづくり

■「つなぐ・つかむ・つたえる・つくる・つちかう」をキーワードとした事業展開

《イメージ図》



「つなぐ」…青少年育成団体同士、青少年と地域の大人・企業・機関・団体、県政

「つかむ」…青少年と青少年を取り巻く現状と課題、青少年育成活動の現状と課題

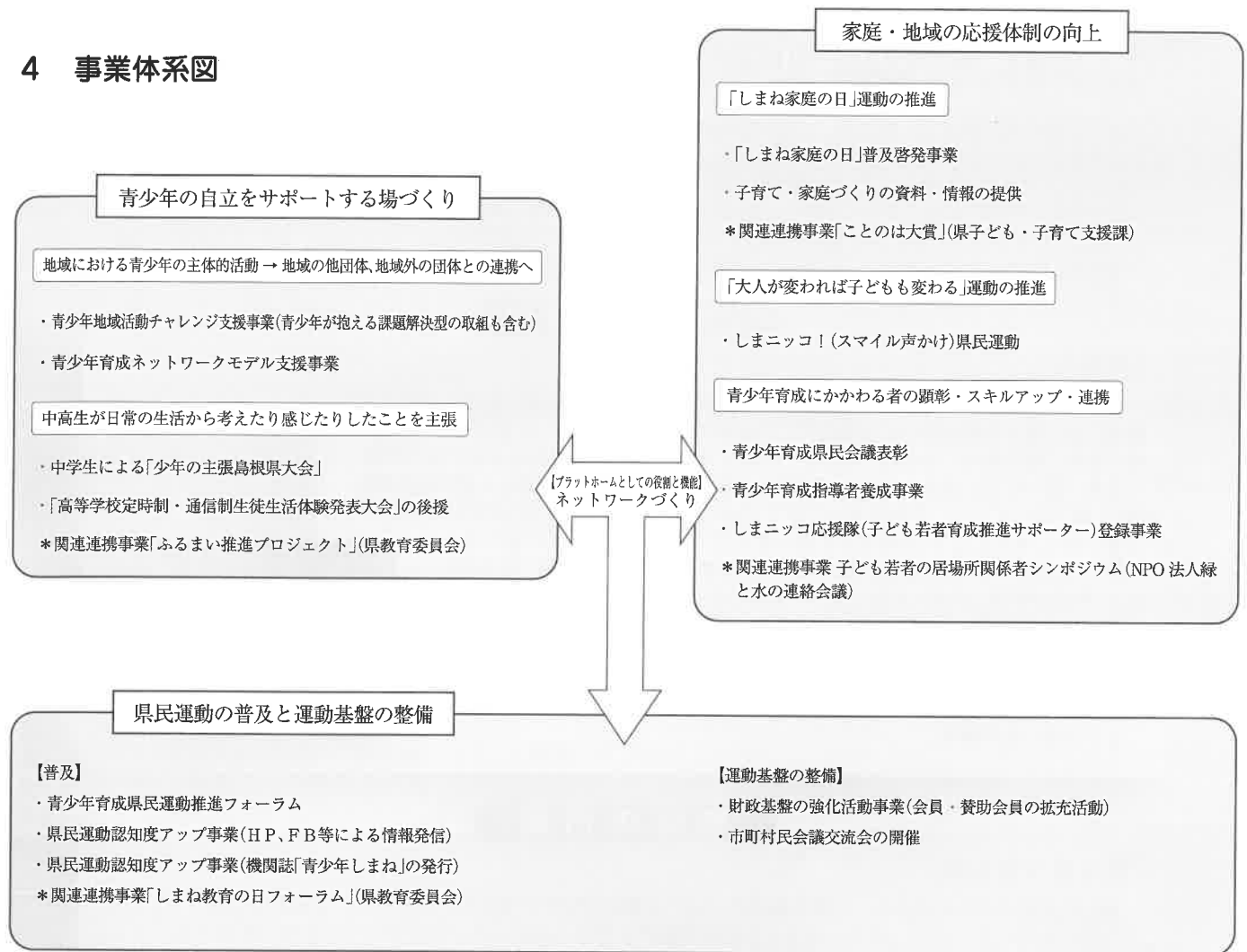
「つたえる（ひろげる）」…青少年育成活動の理念、取組

「つくる」「つちかう」…青少年の主体的活動のための組織や仕組、居場所、協働意識・青少年の現状と課題の把握

■時代のニーズに合った青少年育成運動推進のために、常に課題把握に努め、自らブラッシュアップしていくための仕組みづくり

- ・ 定期的に外部的視点を取り入れながら運動の検証や見直しを行い、時代のニーズに合った青少年育成運動の事業展開を図る

4 事業体系図



青少年育成活動の「どうしよう…」を県民会議に相談してください!! 人と人、人と団体・機関をつなぎます

県民会議スタッフには行政・教育・警察からの職員が集まっていますので、多方面にわたって青少年育成活動に必要な情報を提供できます。もしかしたら、青少年育成活動のエキスパートを紹介できるかもしれません。もしかしたら、一緒に活動できる団体を紹介できるかもしれません。青少年育成活動をする上で困ったことがあれば、お気軽に県民会議にご相談ください。

☎ご相談先 → 青少年育成島根県民会議

〒690-8501 松江市殿町1 県庁青少年家庭課内 / 電話：0852-22-6255 F A X：0852-22-6045

会員募集

青少年育成活動にあなた
のご協力をお願いします!!

■会員

青少年育成活動を支援し、推進していただける団体・企業・個人の方
年会費 5,000円(一口以上)

■賛助会員

青少年育成活動に関心はあるが、参加できる機会が少ないため、資金面で支援をいただける団体・企業・個人の方
年会費・団体・企業：5,000円(一口以上)
・個人：1,000円(一口以上)

青少年育成島根県民会議では、次世代を担う青少年を育てる運動を広げるために、県民総ぐるみの青少年育成活動を展開しています。この活動は全て会員・賛助会員のみなさまの会費により運営されています。ぜひとも会員・賛助会員としてのご支援、ご協力をお願い致します。



『家族の思い出エッセイ』入賞作品



県民会議では、家庭・家族のあり方を見つめ直し、家族でふれあう時間を作るために、毎月第3日曜日を「しなね家庭の日」として県民運動を行っています。この一環として、今年度は「今も心に残る、家族の思い出」をテーマにしたエッセイを募集しました。島根県在住の方を対象とした募集でしたが、51作品の応募がありました。入賞作品12作品のうち、上位3作品の「会長賞」「家庭の日賞」をご紹介します。

（このエッセイコンテストは「島根県写真家協会」様のご寄付により開催しました。また、あわせて上位3作品の写真もご提供いただきました。ご支援いただき感謝いたします。）

会 長 賞

「肉まん」

息子が高校3年生で、受験生だった10月の初めのこと。センター試験まで約100日余りとなっていた。受験生には土曜も日曜もない。授業以外にも補習やら模試やらで忙しく過ごしていた。そんな時、親にできることは、食べさせて眠らせることくらいだった。そのオプションで、よく学校近くまで迎えに行っていた。息子を迎えに行ったとき、コンビニに寄ると肉まんが売られていた。「もうこんな季節なんだ…」と思い、1つだけあった肉まんを買い、車で待っていた。やおらやってきて、シートに座り込んだ息子に肉まんを渡すと、「おっ、サンキュー」と言って受け取り、半分にして「かあさんも食べる？」というので、「食べる！食べる！！」と言って分けてもらった。私が食べ終わって、車を走り出したところ、息子が言った。「来年の今頃、肉まんを食べたら『去年は母さんと肉まんを食べたなあ』って思い出すかなあ」と。県外の大学を目指している息子のことを聞いて、私は涙が止まらなくなった。それでも強がって、「そうなるようにしっかり勉強してよね」と言ったが、息子の受験勉強期間は私の子離れの練習時期なのかもしれないと感じた。肉まんを見ると、ふと思い出す、鼻の奥がちょっとだけツーンとする思い出である。



家 庭 の 日 賞

「伝えるべきもの」

厳しい父に手ぐすね引かれ、将棋を始めたのは、入学まだ浅き小学生のころだった。圧倒的な存在だった父に抗うすべもないその様は、親子というより師弟関係のようなものだった。不思議と父に対する尊敬の念はなく、ねじ伏せられ、悔しい思いを繰り返し、全てに弱かった自分の記憶しか残っていないが、高校では地区大会で優勝することができた。そのとき、父は黙ってうなずいてくれた。

こころの弱かった少年は、やがて父親となり、今はこうして息子と将棋盤を挟んでいる。あのとき、父親は私に何を伝えたかったのだろう。確かなことは、私の奥底に「自分に負けない強いこころ」が宿されたことだ。この「こころ」は、自身を支える大きな拠り所となり、これからも変わることはないだろう。ふと、息子の目を見える。少し驚いたようだ。この瞳に何を伝えるべきなのか。答えは未だ見えてこない。少年が抱いていた父への思いを重ね合わせると、持ち時間はあまり残されていないのかも知れない。求めるべき手がかりを探すため、息子の「こころの陣地」に向け「負けないこころ」を持った少年はひたすらに駒をすすめる。



「十数秒の電話」

「二人とも無事だから心配しないで。暫くは友人宅に身を寄せることにしたから。ごめん、電話を待っている人がいるので、これで切るよ。二人とも大丈夫だからね。」十数秒で電話は切れた。しかし、私たち夫婦には、生きていることの確かな証を感じさせる十数秒だった。

二十四年前の一月十七日早朝、激しい揺れに驚き、テレビ画面いっぱいに広がる神戸市の惨状に言葉を失った。大学卒業後、双子の娘はそれぞれの就職先を見つけ、同じアパートで希望にあふれた暮らしをスタートさせたのが神戸市だった。その神戸市が壊滅的な打撃を受けているのではないかと。今にも泣き出しそうな妻を励まして受話器を取るが、聞こえてくるのは「回線が混雑して」という機械音だけ。それでもと思い、繰り返し受話器を取るが、一向につながる気配はない。

娘たちの無事を祈るしかない私たちに、午後三時過ぎ一本の電話がかかった。娘から無事を知らせる電話である。近くの区役所仮設の災害用公衆電話からとのことで、順番を待つ人の長蛇の列が続いているという。声を聞いて泣き出し、座り込んだ妻の肩をなでながら、私の目も遠くが見えなくなった。

大学や高校生の子を持つ親になった娘たちは、もう覚えていないかも知れない。しかし、私たち夫婦には、生きることの意味を教えてくれたこの十数秒を決して忘れることはないだろう。

